

### (3) ヤングケアラーと思われるこどもがいたときの支援までの事例 【警察通告編】

#### CASE 1：多子世帯で妹弟の世話を担う小学6年生女子への支援

- 家族構成：母親（就労時間不規則）、兄（中3）、本人、弟（小2）、妹（5歳）、弟（3歳）
- 本人：受験生の兄を気遣い下の妹弟を世話する小学6年女子
- 関係機関等：警察、小学校、保育所

#### 気付き

- 通行人から、「保育所年齢の子2人が、こどもだけで日中度々公園で遊んでいる。」と警察に通報があった。
- 警察からネグレクトとしての通告を受理し、児童相談所が母に連絡した。母子に来所してもらい状況確認を行うとともに、再発防止の助言指導を行った。
- しかし、2ヶ月後に同様の事案があり、妹（5歳）、弟（3歳）を一時保護した。
- 母、本人、中学生の兄、小学生の弟とも面接し、小学校や中学校にも調査を実施した。母が夜間帯の仕事をしている間に、本人が中心となって、下の妹弟の食事の準備や洗濯、入浴の世話等をしていたことが判った。本人は「兄は受験生だから、自分が頑張らなくては。」と思う一方で、「自分の時間が欲しい。」とも話したため、こども相談センター（ヤングケアラー相談窓口）と情報共有した。

#### つながり

- 母は、こども達に負担がかかっていることを分かりつつも、生活のために現在の配達業を継続しており、「こどもを自宅に置いて仕事に行くことがある。」と打ち明けた。
- 母は元々、勤務時間の調整を希望していたことから、夜間帯の仕事を控えて昼間に勤務できるよう、こども相談センターが、マザーズハローワークを紹介し、母は転職した。
- 周りに頼れる親族がいない状態であったため、母子の意向を確認したうえで、本人らの家事負担軽減や一般的な家事技術の習得を目指して、こども相談センターがヤングケアラーヘルパーを派遣する調整を行った。
- 母は児童相談所の指導を受け入れ、ヤングケアラーヘルパーの支援を受けながら、再発防止に努める意向を示したため、妹（5歳）、弟（3歳）は家庭復帰となった。
- こども相談センターから、こども達が所属する小中学校、保育所に家庭の状況を伝え、見守りを依頼した。
- こども相談センターがこども食堂を紹介し、定期的に利用するようになった。こども食堂に参加している近隣の大人とも顔見知りになり、この家庭に普段から声をかけてくれるようになった。

#### 支援する

- 学校や保育所は、チェックリスト（学校編・地域編）で、引き続き様子を見守る。
- 近隣住民が食べ物や差し入れしたり、こども達に困りごとがないか尋ねて、周りの大人が見守っていることを知らせた。

#### 見守る

Point!

- ・チェックリスト（地域編）  
IV様式編P11へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール  
（大人向け）  
II活用編P9・IV様式集P2へ！
- ・ヤングケアラー気づきツール  
（こども向け）  
II活用編P6・IV様式編P1へ！
- ・ヤングケアラーアセスメントツールII活用  
編P11・IV様式編P3へ！

Point!

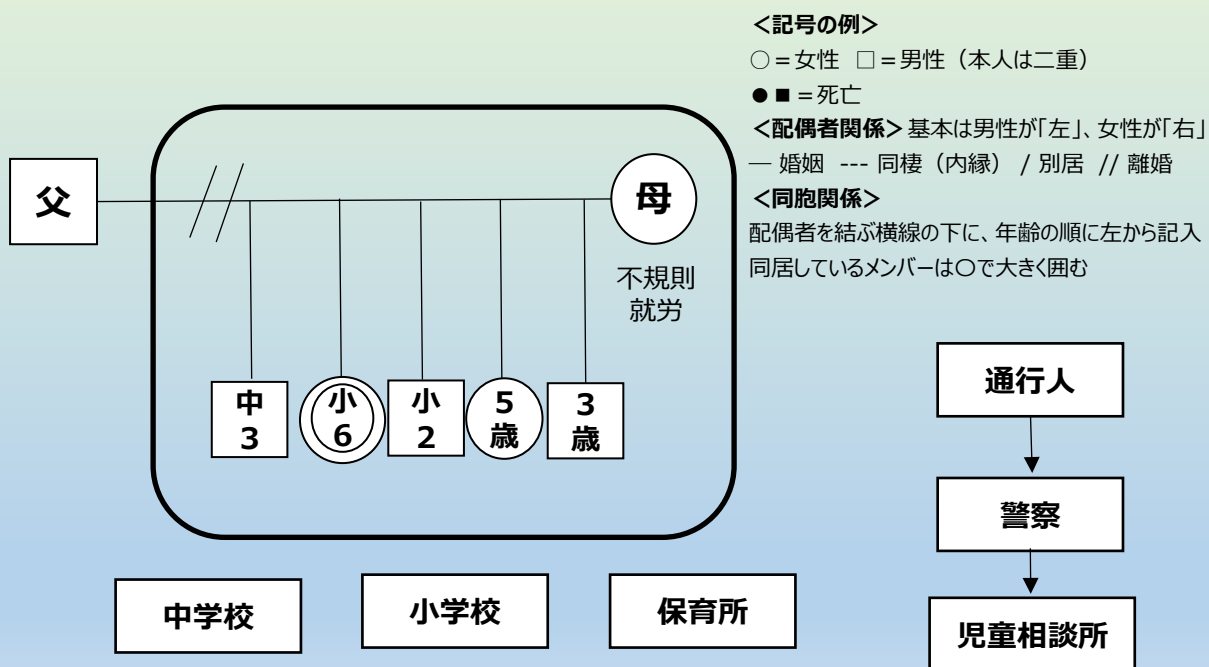
- ・こども相談センター  
（ヤングケアラー窓口）  
[Tel:076-243-4158](tel:076-243-4158)
- ・マザーズハローワーク金沢  
[Tel:076-261-0026](tel:076-261-0026)

Point!

- ・フェイスシート
- ・支援検討シート
- ・支援計画書  
IV様式集P12へ！

## 気付き

### ジェノグラム（家族関係図）



## 見守り

### エコマップ（支援関係図）

（環境と結合の表記）

▲ 実線の太いものほど重要、もしくは強い関係  
 → 資源・エネルギー・関心の流れ

